

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(京都市立伏見板橋幼稚園)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	・保育の振り返り・教員連携の充実 ・園内研修の充実 ・園だよりによる保護者への発信 ・親子絵本貸出し ・「親子で絵本！」取組結果の発信	・幼児の遊ぶ姿の変容・事例検討 ・週案による保育の振り返りの充実 ・アンケート項目 「幼稚園を好きだと感じている」 ・「親子で絵本！」の定期回収と便りによる保護者のコメント紹介 ・親子貸出しの状況、100冊達成数
	幼小接続の視点	・年間交流計画の作成 ・行事参加、交流保育と事前事後研修 ・アプローチャリキュラムの5歳児教育課程への入れ込み ・養護教諭(兼務)による視力・聴力検査の実施 ・進学前の情報交換 ・就学支援シートの活用	・行事参加、交流保育の実施回数や事後研修 ・5歳児の教育指導計画の見直し
	心と体・生活習慣	・日常保育の中での体を動かす経験の充実 ・基本的な生活習慣の確立に向けての保護者啓発 ・保健職員による保健指導の充実、園便りによる発信	・アンケート項目 「身体を動かして遊ぶことが好きであるか」各学年「持ち物の始末や着替えにおける項目」 ・子どもの安全・健康に対する意識の変容
園独自の項目	信頼関係・折り合い・自己肯定感	・信頼関係を築いていくための子どもの内面の読み取り ・園内研修の充実	・幼稚園きょうだいの取組による子どもの変容 ・アンケート項目 各学年「自己発揮や人とのかかわりに関する項目」 ・事例検討や研究保育
	小・中・家庭・地域との連携	・小学校、中学校との交流保育 ・地域行事運営の教職員の参画と子ども、PTA役員の参加 ・保護者の悩みや相談を真摯に受け止め、子どもの育ちや課題を共通理解する。	・アンケート項目 「幼稚園は小学校や中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしているか」 「担任や教職員は子どもについての相談に切実に対応している」
	体験活動を通じた健やかな心の育成	・小動物や小さな生き物の飼育 ・季節を通しての栽培活動や収穫、食育	・アンケート項目 「身近な動植物に興味・関心をもったり、大事にしようとしていたりしている」
	情報発信の充実	・降園時の話 ・積極的なホームページの更新 ・園だよりの充実	・ホームページの更新状況 ・アンケート項目「園の教育方針や子どもの活動の様子は伝わっているか」



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年7月28日
	評価者・組織	教職員
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・事例検討により子どもの姿の変容 ・アンケート結果 「そう思う」100% ・「親子で絵本！」活用率98% ・親子絵本貸出し利用率98% ・1学期の100冊達成数8%	・保育の振り返りを充実させることや教員同士の連携を密にすることで、保育の改善・充実が行われている ・子どもが安心して幼稚園にきていると保護者も実感している。 ・親子貸出し、「親子の絵本！」が定着。家庭による貸出利用率の差を考慮し、共働き家庭の貸出し時間について検討が必要である。	・教員間で子どもの姿の変容について情報共有しながらしっかりと連携し、異年齢のかかわりが活発に行われるようにする。 ・登園時の絵本貸出が難しい場合は、利用しやすいよう配慮する。
・5歳児前半の教育指導計画の見直し ・行事参加や交流保育の回数1 ・年長児の小学校施設利用回数3 ・就学支援シート活用2名	・小学生と一緒に防火コンサートを鑑賞したり、校庭で年長児がリレーを楽しんだりし、小学校に親しみをもつことができた。小学生との触れ合う機会を増やしたい。 ・交流保育の事前事後研修を更に充実させる。 ・就学支援シートの活用により、保護者が安心して小学校での面談を行うことができた。	・年間計画作成、1学期からの交流保育の充実に向けた積極的な連携を図る。 ・幼小連携研修や交流など積極的に参加し、学びに向かう力を意識した保育を行う。
・運動が好き 「そう思う」97% ・生活習慣「そう思う」 3歳100%・4歳97%・5歳81% ・子どもの姿の変容	・体を動かす活動の充実を教員・保護者共に、成果を感じている。 ・生活習慣の確立は年齢が上がるにつれて、保護者が子どもに求めるものが高くなっている。 ・月に一度の保健指導により、安全・健康に関する意識をもつようになってきている。	・今後も引き続き、体を動かす経験の充実を図る。 ・発達年齢に応じたかかわりや個別に応じたかかわりを保護者に啓発していく。 ・保健指導の内容を保護者に発信していくなど、保護者への啓発の充実を図る。
・事例検討や研究保育による子どもの姿の変容 ・信頼度「そう思う」96% ・自己発揮・人とのかかわり「そう思う」 3歳100% 4歳97% 5歳86%	・園内研修の充実により、教員の幼稚園きょうだいの取組に対する意識も高まる。 ・幼稚園きょうだいの定着により、保護者も異年齢児交流のよさを実感しつつある。 ・安心感や人とのかかわりの育ちを感じている保護者が多い。幼稚園だよりなどを通して発信している子どもの姿が伝わってきている。	引き続き、幼稚園きょうだいなど異年齢児交流における育ちや人間関係の育ちを事例検討すると共に、保護者に発信していく。
・連携「そう思う」と答えた保護者の割合95% ・相談の対応「そう思う」と答えた保護者の割合 97%	・小学校が隣接しているので小学校の運動会の刺激を受けて幼稚園児が頑張ったり応援したりしていた。板橋祭りなど、地域の行事に教職員で参加する中で地域の方や保護者とのつながりも深まってきている。 ・担任だけではなく、全教職員で子どもについて考えていこうという良い雰囲気がある。	・小学校や中学校、地域との連携の充実を引き続き図ると共に、保護者への具体的な情報発信に努めていきたい。 ・引続き教職員も地域の行事に積極的に参加する。 ・引続き保護者の相談を真摯に受け止め、問題解決につながっていくように努めていく。
・「そう思う」と答えた保護者の割合94% ・子どもたちが当番を決めて自分たちで毎日飼育活動をしたり、各クラスでうさぎやインコを育てたりして親しみをもっている。栽培活動は一人一鉢栽培を通して親子で野菜や花の生長を楽しみに取り組めた。	・親子で楽しむ栽培活動をすることでより栽培活動への興味関心につながった。 ・飼育活動は毎日取り組むことで子どもたちの生活に定着していった。 ・栽培活動の水やりや土づくりなどを子どもたちと一緒に取り組むことが難しかった。	・栽培活動における子どもの姿や育ちを保護者に引続き発信していく。 ・栽培活動は、より親しみを感じられる様にタマゴを産むめんどりを増やしたり、インコをつがいにしていく等環境を整えていく。
・「そう思う」と答えた保護者の割合94% ・前期での更新回数100回程度	・ホームページや園だよりでの情報発信は順調に行っている。 ・ほぼ毎日更新できたことがアクセス数を増やした要因である。 ・保護者からは、よく見えているという声が聞かれる。	・更新内容の精査をし、幼稚園教育の理解が図れるような発信を心がけ、情報発信の更なる充実を図る。

学校関係者評価	
評価日	平成28年9月1日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
幼稚園や小学校の時期に大事にされて育った子どもは、成長しても問題行動が少ない。	健やかな学校生活につないでいくために、子どもが幼稚園の時代に大事にされている実感をもてるよう、丁寧にかかわっていきたい。
小学校と隣接している良さがある。	小学校と隣接している良さを活かした取組の充実を図りたい。
過去の事故事例もあり、小学校ではビート板を使用していない。水道代がかさむが安全性を考慮して深さ調節をしている。	安全第一として保護者の理解を得ることができるよう十分に発信していく。
・子どもは大人になっても幼稚園での思い出を覚えており、縦割り活動の取組も大きな刺激となるだろう。 ・子どもは一番最初に親から学ぶ。挨拶をしない保護者の子どもは挨拶ができない。	・今後も、縦割り活動の良さを大事にしながら取り組んでいきたい。 ・保護者が子どもの手本となるよう保護者に啓発したい。
・荒れている中学生が、幼児とのかかわりの中では表情や口調が優しくなる。 ・地域防災訓練では中学生が園児を守りながら避難する様子を、地域の人々は微笑ましく感じている。	中学校の「ふれあい授業」(家庭科)や幼小の交流授業など今後もしっかりと連携していききたい。
学校園で人権について学んでも、家庭で不用意な発言をされることがある。	幼稚園での経験を通して、人権教育の充実につなげたい。
保護者啓発の手段の一つとなっている。	今後も情報発信の充実を図りたい。

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(京都市立伏見板橋幼稚園)

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	・さらに保育の振り返りの充実や、教員同士の連携を密にしていく。 ・親子貸し出しや「親子で絵本！」の活用に向けた更なる保護者啓発。 ・降園時の貸出時間の検討	・幼児の遊ぶ姿の変容・事例検討 ・週案による保育の振り返りの充実 ・アンケート項目「幼稚園を好きだと感じている」「教職員は一人一人の子どもの大切にし、温かいかわりをしている」 ・「親子で絵本！」の貸出し状況や100冊達成数
	幼小接続の視点	・行事参加、交流保育の実施や事後研修・5歳児の教育指導計画見直し・年間計画作成・交流保育の充実に向けた積極的な連携・幼小連携研修や交流などへの積極的参加・学びに向かう力を意識した保育	・行事参加や交流保育の回数 ・事後研修 ・小学校施設利用回数
	心と体・生活習慣	・今後も引き続き、体を動かす経験の充実を図る。 ・年齢発達や個別に応じたかわりを保護者に啓発していく。 ・保健指導の内容や、保護者への啓発や連携の充実を図る。	・アンケート項目 「体を動かして遊ぶことが好きである」「持ち物の始末や着替えにおける項目」(各学年) ・子どもの安全・健康に対する意識の変容
園独自の項目	信頼関係・折り合い・自己肯定感	・信頼関係を築いていくための子どもの内面の読み取り ・園内研修の充実	・幼稚園きょうだいの取組による子どもの変容 ・アンケート項目 各学年「自己発揮や人とかかわりに関する項目」・幼稚園きょうだいの取り組みに関する自由記述欄 ・事例検討や研究保育
	小・中・家庭・地域との連携	・小学校、中学校との交流保育 ・地域行事運営の教職員の参画と子ども、PTA役員の参加。 ・保護者の悩みや相談を真摯に受け止め、子どもの育ちや課題を共通理解する。	・アンケート項目 「幼稚園は小学校や中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしているか」 「教職員は話しかけやすい雰囲気である」
	体験活動を通じた健やかな心の育成	・小動物や小さな生き物の飼育(インコの数を増やし、つがいで飼う) ・栽培・収穫・食育等の充実。 ・飼育・栽培活動における子どもの姿や育ちを保護者に発信する。	・アンケート項目 「身近な動植物に興味・関心をもったり、大事にしようとしていたりしている」 ・飼育・栽培活動を通した子どもの姿の変容
園独自の項目	情報発信の充実	・降園時の話(一日の様子や連絡事項を伝える) ・積極的なホームページの更新 ・園だよりの充実	・ホームページの更新状況 ・アンケート項目「園の教育方針や子どもの活動の様子は伝わっている」

・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年1月20日
	評価者・組織	教職員
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・研究保育の事後研修の内容 ・事例検討により子どもの遊ぶ姿の変容 「そう思う」100% ・「親子で絵本！」の絵本記録の記述が少ない。 ・親子絵本貸出し利用率 99% ・3学期の100冊達成数 48%	・研究保育を通し、子どもやクラスの様子を深く読み取り、保育の改善・充実につながった。 ・教職員が、子どもを大切にしていることが保護者にも伝わってきている。 ・貸出時間の幅を広げたことで利用が増えた。 ・「親子の絵本！」の活用の仕方について周知が不十分である。	・教員同士の連携を密にし、日々の保育の振り返りを充実させ、保育の改善・充実を図る。 ・子どもにとって幼稚園が安心できる場であるようさらに幼児理解に努めていく。 ・「親子の絵本！」の活用の仕方について定期的に保護者に知らせ、啓発をする。
・5歳児後半の教育指導計画の見直し ・行事参加や交流保育(板橋ランド・ランドセル体験等)の回数1 ・交流保育の事後研修 ・小学校施設利用回数3(風揚げ、避難訓練、マラソン大会等)	・交流保育や校庭で遊ぶことを通して、小学校を身近に感じ、就学の期待感が膨らんだ。 ・積極的な連携を図ることができたが、交流保育の内容について、より丁寧な連携が必要である。	・小学校とさらに積極的な連携を図り、早期の交流保育年間計画づくりや、より丁寧な発達年齢に合わせた取組や事後研修を充実させる。
・運動が好き (ゲームボックスや巧技台などの活用) 「そう思う」99% ・生活習慣「そう思う」 3歳児98%4歳児95% 5歳児91% ・子どもの姿の変容	・子どもが自ら体を動かして遊ぶ喜びを味わうための環境づくりができた。 ・進級や就学を間近にし、保護者の意識が向上している。 ・手洗いうがい励行や月一回の保健指導により、健康への意識が高まった。	・今後も引き続き体を動かす経験の充実を図る。 ・子どもの発達や季節に合わせ、丁寧に保護者啓発を行い、各学年のねらいを実現させる。
・事例検討や研究保育を通して子どもの姿の変容 ・信頼度「そう思う」98% ・自己発揮・人とかかわり「そう思う」 3歳100% 4歳100% 5歳99%	・子どもが、いろいろな友達や教職員に安心して積極的にかかわっていく姿が見られた。 ・年少児と年中児の取組を増やし、異年齢交流のねらいを保護者に具体的に発信することができた。	・引き続き、子どもの人とかかわる力を育むために積極的に異年齢交流を行う。 ・幼稚園きょうだいの取組の各学年のねらいを発信する。
・連携「そう思う」と答えた保護者の割合98% ・話しかけやすい「そう思う」と答えた保護者の割合 98% ・中学生のチャレンジ体験	・地域の行事に教職員や保護者が積極的に参加し、子どもを中心とした連携ができた。 ・教職員には話しかけやすい雰囲気があると感じている保護者が多い。	・小学校や中学校、地域との連携をより充実させると共に、保護者へ様々な手段で取組について発信していく。 ・教職員は親しみやすい雰囲気づくりを心掛け、保護者の思いを丁寧に受け止めながら信頼関係を構築していく。
・「「そう思う」と答えた保護者の割合94% ・学級や当番による飼育活動(インコやウサギ、チャボ等)の充実 ・園内の畑や花壇での栽培活動や一人一鉢栽培の充実	・飼育活動を通し、子どもが生き物を身近に感じ、親しみをもってかわる姿がある。 ・自分で土づくりや苗選びを楽しみ、思いをもって栽培活動を楽しむことができた。 ・栽培物を収穫し、味わう喜びを経験できた。 ・園内の自然物を用い、製作活動を十分に楽しむことができた。	・動植物により親しみを感じられるような環境づくりを行う。 ・栽培活動を計画的に行い、収穫や味わう経験を充実させる。 ・動植物とかかわる子どもの姿を保護者に丁寧に発信をしていく。
・「「そう思う」と答えた保護者の割合98% ・後期のホームページ更新回数150回程度 ・リーフレットの活用	・降園時の話やホームページ、園便りでの情報発信は順調に行うことができていた。 ・リーフレットを活用することで子どもの発達や学びに向かう力、園の教育方針をわかりやすく保護者に伝えることができた。	・今後も情報発信の充実を図る。 ・教育方針をよりわかりやすく保護者に発信できるよう努める。

学校関係者評価	
評価日	平成29年2月7日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 〈学校評議員〉
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
・大人も子どもも幼稚園が好きだと感じている。	・幼児期ならではの親子の触れ合いの大切さを保護者に啓発していきたい。
・小学校では縦割り活動の時間の確保が難しい。 ・幼小交流では、卒園しても幼稚園きょうだいのつながりの継続性が見られる。 ・小1ギャップが少ない。	・来年度も、幼稚園きょうだいの取組の充実に向けて共に考えていく。
・挨拶ができる保護者が多く、送迎時の雰囲気も朗らかである。	・地域でのあいさつ運動等を通して、挨拶ができる子どもの育成に取り組む。
・幼稚園きょうだいの取組に関して保護者の否定的な意見がない。 ・保護者は我が子の新しい面を知ることができる。	・子どもが成長しても、印象的な思い出となる幼稚園きょうだいの活動を、今後も大事にして取り組んでいきたい。
・小学校が会場となる地域行事に子どもが参加することで、小学校を身近に感じている。 ・子どもにかかわる担任に気を使い、話しかけづらいと感じる保護者もいる。担任は、話しかけやすい雰囲気を見せてほしい。	・子どもが地域行事に参加する機会を大事にし、共に考えていく。
・生き物と触れ合い、命の大切さを学んでほしい。飼育活動の充実は子どもの心を豊かにしている。	・園内の飼育・栽培環境について共に考えていく。
・遠方に住んでいる祖父母が孫の様子をホームページで知ることができる。ホームページの充実が望まれる。	・ホームページ等を通して幼稚園の活動や取組を理解し、発信していく。

3 総括・次年度の課題

・幼稚園きょうだいの取組は、子どもの人とかかわる力を育むだけでなく、教職員同士の積極的な連携を生み、子どもを園全体で見守ったりかわったりしようとする意識を高めることにつながった。個々の子どもやクラスの様子や育ちを多面的に見ることができた。事例検討や研究保育の充実、保育環境の見直しに努め、次年度も、幼稚園きょうだいの取組を含めて保育の充実・改善に向けて取り組んでいく。また「親子で絵本！」の活用の充実を目指すし、保護者啓発に努める。

・リーフレットを十分に活用し、家庭・小学校・中学校・地域に対し、公立幼稚園の幼児教育方針を具体的に発信しながら、連携を深めていく。また、円滑な幼小接続を目指し、早期に交流保育計画の策定・実施を目指す。

